

高野山真言宗管長 金剛峯寺座主 松長有慶 殿下 御親修
高野山開創一千二百年記念 東日本地区枢議参与檀信徒

お待ち受け特別伝道大会

涼として一千二百年

平成二十六年五月二十六日(月)午後一時開場
東京芸術劇場 東京都豊島区西池袋一八一
主催 東日本支所協議会・第二地域伝道団 担当 東京事務支所



高野山開創 1200 年記念 東日本地区枢議参与・檀信徒

お待ち受け特別伝道大会

お大師様は弘仁 7 年(816)、時の嵯峨天皇に願い出て高野山を下賜され密教の道場を開かれました。平成 27 年(2015)は、高野山が開創されてから 1200 年を迎えます。

高野山真言宗では宗祖弘法大師の御心に立ち返りそのご恩に報じるべく『生かせ いのち ~大師のみおしえ いまここに~』の言葉のもと開創 1200 年を迎えるにあたり全国各地において報恩伝道等の様々な事業を行っております。

平成 27 年の開創 1200 年記念大会の盛儀を祈念し、東日本地区枢議参与檀信徒の皆様とこの勝縁の意義を深く心に刻み共に喜びを分かち合うべく高野山真言宗管長金剛峯寺座主松長有慶殿下を特請しお待ち受け法要を開催いたします。

皆様お誘い合わせいただき多くのご参加を賜りますよう、ご案内申し上げます。

合掌

《 飛行三鈷杵 》

唐の都長安、青龍寺の恵果阿闍梨から密教のすべてを授かったお大師様は、帰国にあたり「密教を広めるのにふさわしい地を示したまえ」と願いを込めて東に向かって三鈷杵を投げると、紫雲に乗って飛び去りました。この三鈷杵が着いた場所こそが悠久の聖地、高野の地であり、高野山開創の由縁であります。

この重要文化財の「飛行三鈷杵」を高野山開創のシンボルとして実物から型を起し、雷木で制作した「撫で三鈷杵」が、一年をかけて全国の大師信徒を巡り、この度の法要に合わせて会場にやってきます。様々な願いがかない、悪事災難を払い去ると経典にも説かれる三鈷杵を会場で実際に触れていただき、お大師様の思いと加持力を感じて頂きたいと思ひます。

タイムスケジュール

13時	開場
14時	開会式
14時15分	授戒・御親教
14時50分	休憩
15時10分	高野山の声明と御詠歌
16時10分	伝道劇「高野への道」
16時45分	閉会式



唐の海岸からの投三鈷



高野山開拓 松に掛かる三鈷



全国行脚 飛行三鈷

暖簾 (のれん)

「暖簾に腕押し」というのは、手ごたえのないことの譬えである。江戸時代以来、暖簾は、商家で盛んに用いられ、その店の代名詞のようになるが、これはもと禅寺の僧堂入り口などに冬の隙間風を防ぐために垂らす綿布を称した。夏は日ざしをさえぎり、風の通るように「簾」を用いる。因みに、「のれん」というのは暖簾の唐音ノンレンが日本化してノウレンとなり更に縮約されたものである。

仏教が生んだ日本語

掲示板

生まれ変わるなら、
生きていくうちだ。

大会に参加した
総代の皆さんです



空海の言葉 シリーズ

いちげいこ た ごしや
一芸是れ立つ、五車通し難し
「性霊集」

●●一芸に秀でた者は必ず用いられるが、

五台の車に乗せきれないほどの本を書いても、正しい道理に基づいたことを学んでいない者は、なんの役にも立たない

昔から「芸は身を助ける」といいます。弘法さんは、「人は何か一つ芸を持って」といわれます。ただし、その芸が世のため、人のためになるような芸であれば、なんでもいいのです。

どうやって芸を身につけるかって？ 簡単なことです。どんなことでも、一つのことを十年続ければいいのです。いま七十歳の人でも、今日からやれば八十歳で一芸が身につきます。いますぐに始めましょう。

